

智頭急行株式会社第37回定時株主総会の内容について

智頭急行株式会社第37回定時株主総会は、2023年6月7日にホテルニューオータニ鳥取(鳥取県鳥取市今町2丁目153)において開催いたしました。

なお、本総会は、法令に基づく所定の期間をもって招集し、かつ、定足数を満たしてまいりましたので、適法に成立いたしました。

その主な内容を次のとおりお知らせいたします。

記

第37回定時株主総会

・第37期事業報告について

事業報告書の内容を報告しました。

・第37期貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表並びに剰余金処分案の承認について

原案どおり承認されました。

・取締役の任期満了に伴う取締役の選任について

下記の15名が選任されました。

・2022年度智頭線の輸送人員について

特急列車及び普通列車の輸送人員を報告しました。

【取締役】

	氏名	備考		氏名	備考
再任	平井 伸治	(鳥取県知事)	再任	庵道 典章	(佐用町長)
〃	服部 洋平	(兵庫県副知事)	〃	梅田 修作	(上郡町長)
〃	小谷 敦	(岡山県副知事)	〃	石丸 文男	(㈱山陰合同銀行代表取締役会長)
〃	深澤 義彦	(鳥取市長)	〃	八木 俊英	(㈱鳥取銀行取締役常務執行役員)
〃	吉田 英人	(八頭町長)	〃	丸山 明則	(神姫バス㈱代表取締役専務取締役)
〃	金兒 英夫	(智頭町長)	〃	稲田 雅也	智頭急行㈱
〃	青木 秀樹	(西粟倉村長)	新任	西尾 浩一	智頭急行㈱
〃	萩原 誠司	(美作市長)			

参考：監査役

	氏名	備考
	広田 一恭	(倉吉市長)
	三宅 智章	(姫路信用金庫専務理事)

(参考)

第37期(2022年度)の決算状況等について

1 決算の状況

(1) 営業収益 2,204,269,201円

営業収益は、2,204百万円(前期比122.5%、第34期比79.8%)と新型コロナウイルス感染症の影響を受けた期間が限定的だった第34期より559百万円の大幅な減となりました。

ア. 旅客運輸収入 910,822,414円

旅客運輸収入は、911百万円(前期比158.2%、第34期比70.8%)と新型コロナの影響等により輸送人員が大きく減少し、第34期より375百万円の大幅な減となりました。

イ. 運輸雑収 1,293,446,787円

運輸雑収は、1,293百万円(前期比105.6%、第34期比87.6%)とスーパーはくと6号及び9号が平日等に往復運休となったこと等により受取車両使用料が減少し、第34期より183百万円の減となりました。

(2) 営業費用 2,342,601,424円

営業費用は、2,343百万円(前期比105.5%、第34期比92.0%)と第34期と比較して、軽油単価の高騰に伴う動力費の増加等があったものの、新規投資を抑制したことに伴う固定資産税及び減価償却費の減少、高架橋の修繕の減少等により204百万円の減となりました。

(3) 営業損益 △138,332,223円、経常損益 △94,762,360円

営業損益は、△138百万円と第34期より354百万円の減となり、経常損益は、△95百万円と外貨定期預金解約に伴う為替差益、定期預金等の受取利息等による営業外収益等により赤字幅が縮小したものの第34期より313百万円の減となり、大幅な減収減益となりました。

前期の経常損益と比較すると増収となり188百万の赤字幅縮小となりました。

第37期の経常損益の赤字額は、第35期(2020年度)から3期連続で、運行期間が4カ月足らずだった第9期(1994年度)を除くと、開業以来28年間で4番目の赤字額となりました。

なお、国及び自治体からの補助金等を計上する特別損益を加味した実質的な赤字である税引前当期純損益は△7百万円となりました。

(単位：円、%)

区 分		第37期(2022年度)	(前期比) (第34期比)	第36期(2021年度) 差額	第34期(2019年度) 差額
収入	営業収益	2,204,269,201	(122.5) (79.8)	404,398,839	△558,752,064
	旅客運輸収入	910,822,414	(158.2) (70.8)	335,253,458	△375,474,282
	運輸雑収	1,293,446,787	(105.6) (87.6)	69,145,381	△183,277,782
費用	営業費用	2,342,601,424	(105.5) (92.0)	121,301,759	△204,282,023
	人件費	506,249,353	(101.7) (103.5)	8,457,727	17,098,455
	修繕費	787,345,725	(110.7) (86.9)	76,052,329	△118,731,448
	動力費	349,387,258	(130.0) (123.5)	80,597,903	66,508,747
	経 費	360,894,370	(100.9) (96.1)	3,331,341	△14,594,964
	諸 税	56,263,007	(94.9) (77.7)	△2,996,568	△16,132,562
	減価償却費	282,461,711	(86.5) (67.1)	△44,140,973	△138,430,251
営 業 損 益		△138,332,223	{ - }	283,097,080	△354,470,041
営 業 外 収 益		46,327,461	(32.5) (318.8)	△96,080,912	31,793,452
営 業 外 費 用		2,757,598	(72.2) (22.9)	△1,059,702	△9,268,530
経 常 損 益		△94,762,360	{ - }	188,075,870	△313,408,059
特 別 利 益		130,899,098	(51.5) (706.7)	△123,315,969	112,376,284
特 別 損 失		43,491,038	(65.5) (183.3)	△22,903,678	19,767,084
税引前当期純損益		△7,354,300	{ - }	87,663,579	△220,798,859
法 人 税 等		1,136,000	(100.0) (1.7)	0	△64,398,400
当 期 純 損 益		△8,490,300	{ - }	87,663,579	△156,400,459
営 業 係 数		106.3			
設 備 投 資		169,349,724			

2 2022年度智頭線の輸送人員について

(1) 特急列車 565,895 人

特急列車の輸送人員は、565,895 人(前期比 149.4%、第 34 期比 66.7%)と新型コロナウイルス感染症の影響を受けた期間が限定的だった第 34 期(2019 年度)を 282,856 人下回ったものの、前期を 187,027 人上回りました。これは、新型コロナの第 7 波、第 8 波の爆発的な感染拡大はあったものの、年度間を通して緊急事態措置又はまん延防止等重点措置の実施地域が無い状態が続いたこと、10 月からは交通付旅行商品支援を含む「全国旅行支援」が開始されたこと、3 月から外国からの新規入国制限が緩和されるなど国内外において徐々に規制が緩和されたこと等により、新型コロナの影響が出始めた 2020 年 3 月以降、列車を利用した旅行、外出等は減少や回復基調を繰り返しながらも、第 37 期末に向けて回復傾向となってきたことが要因です。

列車別には、スーパーはくと号は 411,276 人(前期比 155.6%、第 34 期比 68.7%)、スーパーいなば号は 154,619 人(前期比 134.9%、第 34 期比 61.9%)となり、観光目的のお客様のウエイトが大きいスーパーはくと号のご利用の回復傾向がより大きくなりました。

運行期間が 4 カ月足らずだった第 9 期(1994 年度)を除くと、前年度を 187,027 人上回ったものの開業以来 28 年間で 3 番目に少ない輸送人員となりました。

(2) 普通列車 198,715 人

普通列車の輸送人員は、198,715 人(前期比 106.9%、第 34 期比 72.5%)と第 34 期(2019 年度)を 75,489 人下回り、前年度を 12,794 人上回りました。これは、佐用高校の通学利用が減少しているものの、「全国旅行支援」が継続されたこと、新型コロナに関する規制が徐々に緩和されたこと等により、列車を利用した旅行、外出等が少しずつですが増えてきたことが要因です。

運行期間が 4 カ月足らずだった第 9 期(1994 年度)を除くと、開業以来 28 年間で 3 番目に少ない輸送人員となりました。

《輸送人員》

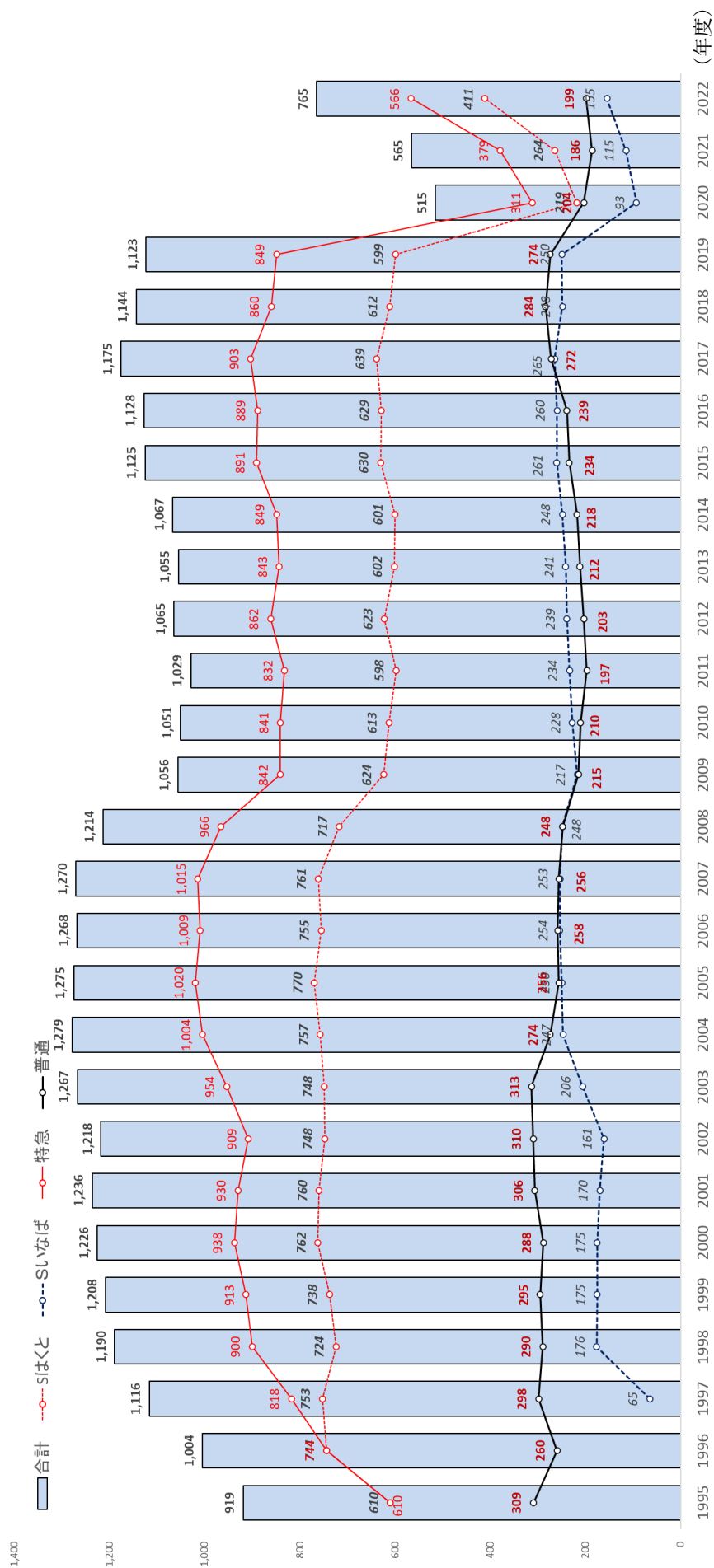
(単位：人、%)

区 分		第 1 四半期	第 2 四半期	第 3 四半期	第 4 四半期	第 37 期累計
スーパー はくと	人 員	78,866	91,002	119,216	122,192	411,276
	乗車率	27.6	29.5	37.5	42.2	34.2
	前期比	213.3	191.0	112.4	166.2	155.6
	第 34 期比	53.1	55.1	75.0	96.6	68.7
スーパー いなば	人 員	32,367	34,929	44,154	43,169	154,619
	乗車率	25.8	27.8	33.9	35.6	30.7
	前期比	168.5	156.4	97.8	154.4	134.9
	第 34 期比	50.6	50.8	66.3	85.6	61.9
特急列車 合 計	人 員	111,233	125,931	163,370	165,361	565,895
	乗車率	27.0	29.0	36.4	40.3	33.2
	前期比	198.0	179.9	108.0	163.0	149.4
	第 34 期比	52.4	53.8	72.4	※ 93.5	66.7
普通列車	人 員	56,819	51,016	50,714	40,166	198,715
	前期比	120.9	107.1	113.4	86.3	106.9
	第 34 期比	75.8	68.8	68.7	78.4	72.5

※新型コロナの影響を受けていない第 33 期(2018 年度)第 4 半期比では、71.7%

(千人)

輸送人員の推移



お 問 い 合 せ
総 務 部 総 務 課
電話 0858-75-6600